

私たちにできること



R&D総務部 部長

わたなべ かずひろ
渡辺 和弘

R&Dセンタはドコモの研究開発拠点ですが、その中にあって私たちR&D総務部は研究開発以外のさまざまな役割を担っています。その役割の1つは、展示ホール「WHARF」を通じてより多くの方々にドコモの研究開発成果や新サービスを情報発信することです。このホールは誰でも見学が可能で「ドコモR&Dが創造する移動通信の将来ビジョンを実感できる」空間として、開設以来およそ12万人の方々に見学いただいています。

この他にも「地域社会との連携」「センタの安心・安全」「働きやすい職場環境の提供」など大事な役割を担っています。今回は最近のトピックスを含めた取組みのいくつかをご紹介します。

- ①R&Dセンタ内には2つの社員食堂がありますが、そこで月2回提供されるヘルシーな食事を社員が1食とすることで、その売上金の一部が自動的に開発途上国の子どもの学校給食1食分としてプレゼントされる、というものです。この活動は、ヘルシーな食事を食べることがそのまま社会貢献になり活動に参加しやすいことや、社員の健康意識の向上にも繋がることから長く続けていきたいと思っています。また、横須賀地区の障がいのある方々の社会参加および自立の一助となるよう、自らが作ったパンやクッキーなどを販売する場の提供も行っています（年6回程度）。販売は準備を含めると約2時間程度ですが、障がいのある方々も準備から会計まで自分たちのできることを一生懸命行っています。この活動は10年以上継

続しており、当センタの恒例行事として定着しています。

- ②R&Dセンタの一部をドラマ、映画、CMなどのロケ地として登録し、すでにいくつかのドラマ撮影などに利用され放映されています。当センタ以外にも、エリア内のいくつかの企業様も行っておりYRPエリアの活性化に努めています。

- ③毎年、学校が夏休みに入る頃「社員家族見学会」を行っています。目新しい事ではありませんが、職場（研究所）の中はなかなか見学する機会がないこともあり、毎年多くの社員の家族が参加します。企画・運営はセンタに勤務する社員が中心になって行い、職場見学、各種イベント、子供向け体験コーナー、ドコモダケの着ぐるみのお出迎えなど、大人から子どもまで楽しめるよう工夫を凝らした催しとなっています。当日は職場を訪問し社員の上司とお子さんが名刺交換をしたり、ドコモダケの着ぐるみと記念撮影をしたりと、お母さん、お父さんのエスコートで楽しい1日を過ごします。

- ④最後に、最近のトピックをご紹介します。横須賀市が横須賀製鉄所（造船所）創設150周年を記念して「ミス・インターナショナル2015」の代表（75の国と地域）を横須賀市に招致した際、R&Dセンタにも立ち寄っていただき、「5G」「てがき翻訳™*1」などドコモの最新技術やサービスを体験していただきました。説明内容は難解なものもあり興味を持ってもらえるか不安もありましたが、質問も多く「とても印象的だった」などの感想もいただきイベントは大変盛り上がりしました。また、見学中には各国代表の情報発信（SNSなど）により、世界各国の方々にもドコモの先進性をアピールしていただきました。今回のイベントに参加した社員も貴重な体験ができたと思います。

以前、新幹線の清掃という、地味で目立たないけれどなくてはならない業務を行う縁の下で力持ち的な会社で働く人たちが、なぜ「お掃除の天使たち」「7分間の奇跡」などと称されたのかを紹介した本の中で、「与えられた仕事をこなすだけの現場ではない」「もっとよくなるはずだ」「もっといろいろなことができるはずだ」という一節がありました[1]。

私たちR&D総務部の仕事も、地味で目立たないものも多くありますが、まだまだ知恵やアイデアを出すことができる、そして、今以上に「自分たちだからできる仕事」に変えていく。そんな思いを強く持ち続けながらお客様、地域社会、社員などさまざまな繋がりを大切に、R&Dセンタに働く人たちの支援を行っていこうと思っています。

文 献

- [1] 遠藤 功：“「新幹線 お掃除の天使たち」（「世界一の現場力」はどう生まれたか？）”，あさ出版，Oct. 2012。

*1 てがき翻訳™：(株)NTTドコモの商標。